

# くすね信

～養泉寺寺報 Vol.10～



親戚寺院揃ってのお通夜の勤行、しめやかに(2023年1月16日)

## この度の老僧還浄に際し、御会葬御焼香頂き、有り難うございました。

令和5年1月10日(火)。当山第18代住職(法名：彦海院釋静観、俗名：倉井英世)が97年の生涯を全うし、往生の素懐を遂げました。御多忙中にも拘らず、多くの方々から御会葬御焼香を賜り、心より感謝申し上げます。また同時に、生前中に賜りました格別の御厚情に対し御礼申し上げます。

老僧は1月7日から体調を崩し、老健てらどまりから長岡の日赤病院へと移りました。

8日、9日と、2日間入院生活を送りましたが、10日の午前1時31分に還浄いたしました。この間、病院から呼び出しがある度に駆け付け、面会させてもらいましたが、最後の最後、10日の夜中に駆け付けた時にはわずかに間に合わず、臨終に立ち会うことはできませんでした。しかしまだ温かい手を握り、父と母と私とで手を合わせました。とても尊い姿を最後まで見せてもらいました。

本来であれば、皆さんから自由にお参りしていただきたかったのですが、時世のためそれが適わず、御門徒の皆様には通夜式の前に時間を設け、一般焼香という形でのご案内とさせていただきます、通夜・葬儀は家族と親戚、役員のみでのお勤めとさせていただきます。

それでも一般焼香の際に、ゆっくりと拝顔しては手を合わせる方、棺に向かって何かを語りかけて下さっている方、遺族に思い出話を聞かせて下さる方もおられました。そんな皆様のお姿のどれもが本当に有り難く、老僧も今の私たちも皆様に支えられてきたのだなあと感じました。



今後とも、寺家族、親戚一同力を合わせ、御門徒の皆様と共に、本当に大切なものを求め、本来の役割をしっかりと果たす、そんなお寺を愚直に作っていきたいと考えています。

「お念仏は生きる力を与えます。お念仏は心に柔らかさを与えます。どうぞ皆さん一緒にお念仏申しませう。」

老僧が卒寿記念法要の際、人生最後の法話の席で語った言葉を思い返し、今改めて自分自身の身に問い返しています。

2月26日には無事四十九陰を迎えました。合わせて御報告、御礼申し上げます。

(文章：住職)

16日のお通夜に続き、翌17日の葬儀当日。この時期にしては珍しい気持ちの良い快晴となりました。葬儀式は親戚寺院に加え、法中寺院の皆様からもお越しいただき、滞りなく勤めさせていただきました。



南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

<お知らせ>

今年4月、上記法要が本山にて勤まります。それに合わせ、参拝旅行参加のお誘いをしてきました。

養泉寺からは8名が参加。仲間の寺院と合わせ、私たちの一行は、約60名バス2台で参拝してきます！参加者にはまた個別にご案内いたします。

また、養泉寺住職は、法要参加を本山から要請されましたので、出仕せねばなりません。そのため下記期間は新潟には不在となります。

この間にももしも亡くなられた方がおられた場合は、申し訳ありませんが、代務者が葬儀を勤めますので、予めご了承下さい。

【住職法要出仕期間】 4月3日～8日



KOTONOHA

毎月の法語印は解説付きで喜ばれています。言葉の味わいが深まりますよ！！



毎月変わる掲示板にご注目！！

養泉寺の掲示板の言葉（9月から2月まで）

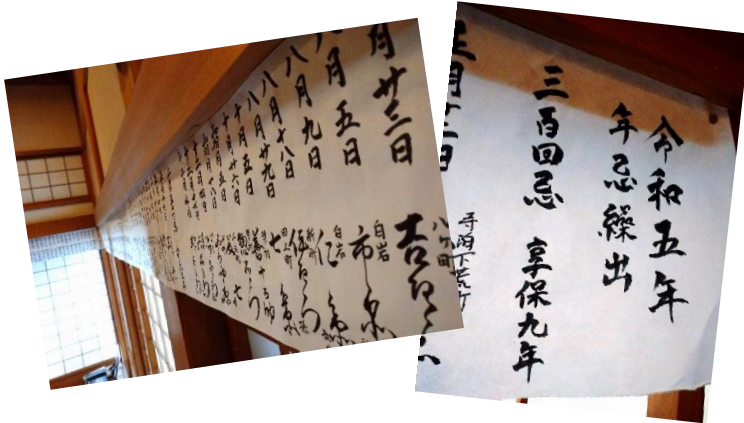
- 9月 「余計なお世話をする人を仏様という」
- 10月 「生きているうちだ 生まれ変わるのは」
- 11月 「対話は最小単位の社会」
- 12月 「一生を貫く一瞬がある」
- 1月 「許すことで人は変わる」
- 2月 「ぬけぬけと 鬼は外とは その口で」



# お寺の裏側 —URATERA—

もっと知ってほしいお寺の情報や、知っているようで知らない仏事の豆知識などを紹介します！  
 年末になるとよく、「年末年始はお寺さんは忙しいでしょう」と言われます。  
 そこで今回は、そんなお寺の年末年始に密着(笑) 一部ですが様子をお伝えいたします！

## お寺の年末年始に潜入!!



年忌を書き出します。養泉寺の年忌は何と300年から繰り出しています。大変ですが歴史を知るいい勉強になります。



餅つき機で仏さまにお供える餅をつき、飾ります。  
 子どもたちも皆で、丸い形に整えています！



家族総出で本堂と庫裏の大掃除をします！



こらあ～遊んでないで  
 手伝いなさあ～い！

年始の挨拶のための、お香の準備をします。  
 のしの字は、坊守に書いてもらっています。



大晦日。おみがきをして、皆でお勤めをしたら、広間に集まって乾杯です。一年間お疲れ様でした！そしてこの後、除夜の鐘です。

# 御門徒みんなの掲示板

日々出会う御門徒の皆さんは、様々な思いを抱えておられます。そんな思いを御門徒さん同士で共有できればと、こんな誌面を作りました。どうぞお読みいただき、皆さんもご利用下さい。

## 欲しい方、いませんか？

今回は、駒野由郎さん（弥彦）からの呼びかけです。



珍しい形のおかもち



三尺の大皿（直径120cm程度）



特大の扇子（幅140cm程度）



掛け軸



烏賊の絵

（みみが反対向きに描かれており、非常に珍しいそうです）



大皿（幅50cm程度）

皆さんも何か呼び掛けんかの！？



- 上記のものが欲しい方、また問い合わせてみたい方は住職までお知らせ下さい。
- 同じように、何かを他の御門徒さんに呼びかけてみたい方も住職まで相談下さい！

# Photo Gallery

10月16日  
養泉寺コンサート 2022



ハーモニカにピアノにギターに歌に、大盛り上がりだったねえ~!!

10月22日、11月19日  
養泉寺 おそうじ隊

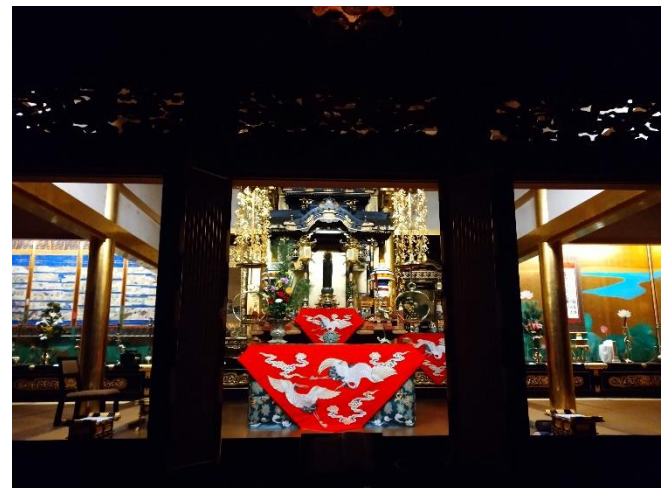


お茶で一服!! ああ~疲れたけど、きれいになるのは気分がいいねえ~!!

10月27日、28日 報恩講



どんな行事も、きちんとした準備から。おみがき、幕張り、境内掃除…。力を合わせなければできない大行事、それが報恩講です。



1 1月28日 法話会



金子みすずさんの詩を紹介する前住職。皆で親鸞聖人の祥月御命日にお参り出来ました！

1 2月31日 除夜の鐘



初めて最後まで一緒に  
突いてくれた長女。

1月28日 初お講



御講師の小林智光師(小千谷市浄照寺住職)  
本山報恩講での法話経験もある方です。  
分かりやすく語って下さいました！



# 法話 (令和4年 報恩講)

【講師】小林智光 師

【講題】今からでも遅くない



おはようございます。小千谷市片貝というところから参りました。小林と申します。今日と明日の2日間通しのテーマを「今からでも遅くない」とさせていただきます。よく聞法会や行事のご案内をすると、「私はもう年だからもっと若い人に声かけてくれ」「私はもう十分」と言われます。ところが、仏法聴聞ということに「もう十分」はありません。本願寺8代目の蓮如上人のお弟子さんの法敬坊という方は、「私は90歳になっても聴聞に飽きたということがありません。毎日新鮮に聞かせていただいております。」と言われていたそうです。この心を忘れずに、私も聞かせていただければと思います。

今日は、あなたでなければやれないことってありますか、と問いたいです。小さいお子さんがいらっしゃる方は子育て、ご家族がご病気の方は介護、仕事している方はその仕事、などでしょうか。ところがこの世の中は悲しいことに、自分でなければ出来ないと思っていたことが、自分でなくても出来ちゃうんですよ。あなたでなければやれないと思っていたことは、実は自分でなくても出来るし、もっと言えば、その私でなければやれないことが出来なくなったらどうしますか。そこを考えなければならぬのです。必ず出来なくなる時が来るのです。

シーシュポスの神話というお話があります。神様から岩を山頂まで押し上げるという罰を受けた男が山頂までゴロゴロ押し上げていくと、反対側に落ちていくのです。そうしたらまた反対側から上げなければいけないのです。繰り返しなんです。そして男は気づきます。「人生というのは無駄なことの繰り返しだなあ」と。この岩が例えば、子育て、仕事、健康、お金になるのです。それが手に入ったと思った瞬間に終わっちゃう、見失っちゃうことがあるのです。私って今まで何してたんだろう、という瞬間があるのです。頑張っているんなことをしてって、ふっと役目を終えた時、俺は何で生きているんだろうか、私は一体何をしていたんだろうか、と。そこで考え始めるのが終活です。

終活とは言ってみれば、家をどうするか、お墓をどうするか、お葬式に誰を呼ぶか、何でも決められますよね。ところが絶対に決められないものがあります。それは命日です。どれだけ準備しても、大晦日や元旦に亡くなったら大騒ぎですよ。いくら準備したところで、命日がいつになるかによって大きく変わります。つまり、終活とはいろんな用意をすることだと皆さん思うのですが、実は用意したことが間に合わなくなっていくんです。それを「死ぬ」というのです。死ぬとは安らかに眠ることではないんです。自分の用意が一瞬にして消えてしまうことです。だからこそ、そんな人生をどうやって生きていくかということを考えなければいけないんですよ。蓮如上人はそれを「後生の一大事」とおっしゃいました。一大事なんですよ。

三帰依文の中に、「人身受け難し」という言葉があります。人と生まれることは難しいことである、ということですよ。そもそも人とは、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天、という六つの世界の中の一つです。悪いことをしたら地獄へ落ちるぞっていいですよ。でも違うんですよ。人の世界が終わったら地獄へ行くんじゃないんです。人と地獄は同じ地続きの世界です。畜生。これは何かと言ったら、家畜の様

にただただ貪り食ってポケッと生きることを畜生というのです。これも人間であることと同じ世界の話なのです。他の世界も同様に、死んだら行くとか別の世界の話ではなくて、この私たちの人生の中に再現されているのです。地獄のような日々もあるし、怒り狂う日もあります。皆さんも腹が立つことがあるでしょう。私もたくさんありますよ。人間とは本当に面倒な生き物であるということです。

林暁宇という先生がいらっちゃって、この先生のお話に、こういう話があります。私たちは生まれる時に必ず聞かれるんだそうです。「人間に生まれると苦勞するぞ。ミズの様泥水を吸い、ミノムシの様に枯れ葉をまよって生きることになる。それでもお前は人間に生まれるのか？」と。そこで、「はい、それでも私は人間として生まれるたいです。」と願って生まれてくるのが、人間なんだそうです。ではどうして人に生まれるのかということ、お釈迦さまが人として生まれたからです。人として生まれたお釈迦さまの言葉は人に生まれないと聞けないのです。

でも逆に言ったら、人として生まれながら、仏教の話を聞いてもなかなか分からないじゃないですか。なぜ分からないのかと言ったら、私たちはいつも迷っているからなんです。だから、人として生まれたのに人の言葉として説かれた仏法がなかなか分からないのです。

そして、「仏法聞き難し」という言葉も出てきます。「聞く」という言葉ですが、門がまえに耳と書きますね。門を耳がくぐってくると「聞く」なんです。門がまえの漢字は他にもいろいろありますよね。門がまえに音という字を書くとか「聞」になります。門がまえに人という字が入ると「閃き」です。お寺というものは門をくぐって来るじゃないですか。門とは仏教の教えです。だから仏門というでしょう。仏門をいたたくために耳を門に通してくるから今聞いているんです。耳を忘れてきたらただの門でしかありません。先ほど門に音が入ると聞だと言いました。聞って何ですか。真っ暗でしょ。真っ暗ってどういう状態かと言ったら、瞼が閉じている状態です。眠いんですよ。お経やお話を聞いていると眠くなる。あれはなぜかと言ったら、門の中に音しか響いて来ないからですよ。耳をどこかに忘れて来ちゃったんですよ。それが、門に人として来たらどうなりますか。閃くんですよ。「あ、なるほど!今までこうだと思っていたけど、こうじゃなかったんだな!」というようにハッとすることを閃くというのです。

さらに、「百千万劫にも遭遇うこと難し」という言葉があります。あうという言葉が出てきたんですけれども、あうという字はいろいろあります。例えば「会う」。人と人が会う時にはこれを使います。そして「合う」。これは物と物とがぴったりとはまることをいいます。気が合うという時にも使いますね。次は「逢う」。これは男女が巡り逢う時に使います。百人一首とかはこの逢うがよく使われますね。皆さんも今のお連れ合いと出逢われましたでしょう。そして、嫌な出遭いもあります。それが「遭う」です。そして、親鸞聖人が使われる最も大事な「遇う」。思いがけず素晴らしいことに出遇った時にこの「遇う」を使います。

あうという言葉一つをとっても様々な意味があります。そしてこれらの意味は、私たちの人生を表しています。どう表しているかと言ったら、例えば子供が生まれて、保育園、小学校に行くと、同級生に「会い」ますよね。その中で気の「合う」友達が出て来るじゃないですか。そして大人になり、高校生、大学生になって色恋沙汰が芽生えてきますよね。そうすると素敵な人に巡り「逢う」ことがありますよね。ところが、いいことばかりじゃないですよ。嫌なことにも出「遭う」じゃないですか。結婚したと思ったらご主人が病気になった、事故に遭った。一番遭いたくないものの最たるものは死じゃないですか。ところが、聞法会等で「どうして聞法をするようになったんですか?」と聞く



と、多くの方がご家族の死を通して、仏法を聞いていかれています。もちろんそれだけとは限りません。悩みがあって聞いていくうちに、という方もおられます。病気を通して聞くようになったという方もおられるでしょう。どちらにしろ、順風満帆で悩みのない時に、仏法を聞くということはないと思います。嫌なことや病気や死ということを通して仏教の教えを聞いていくことが多いわけですね。

先日読んだ本にすごくいい言葉がありました。それは「結婚とは、ポケットいっぱい幸せとリュックいっぱいの苦勞を背負うことだ。」という言葉です。結婚すると「末永くお幸せに。」と言うけれど、「大変だね。これからいろいろあるよ、我慢だよ。」という方が、本当の饒じゃないでしょうか。そんなきれいに取り繕って「お幸せに」と言うのは上っ面の話でしょう。

今はこういう話する人はいなくなりましたが、結婚式のスピーチの定番であるじゃないですか。三つの袋が大事だと。胃袋、お袋、堪忍袋、っていいですよね。言い得て妙だと思いますよね。その通りだと思いますね。胃袋、ご飯が不味いとやっぱ家庭はつまらないですよ。ご飯が不味いというのは、単純に味付けが悪いということではないのです。先日うちの子もがね、スーパーで買ってきた冷凍のパスタを美味い美味いと言って食べたんですよ。それを見たうちの妻がすごく怒って、前の週に自分が作ったパスタは息子はあまり食べなくて、ほぼ同じものだったのに冷凍の方を美味い美味いと言って食べたんですね。「どうせスーパーの方が美味しいでしょ!」と言っていました。味付けは確かに即席や冷凍のものでも美味いんですよ。だけど、味覚的に美味しいものがその家庭にとって良いとは限らないですよ。私が家で食べる時に一番美味しいと思うのは、家族で食べるそうめんです。そうめんなんて大したことないじゃないですか。でもそのそうめんを家族皆ですすっている時が私は一番幸せなんです。どんな料亭のご飯よりも、豪華なイタリアンやフレンチよりも、家族でどうでもいい話をしながらそうめんをすすっている時が一番幸せです。その家庭で一番落ち着く、胃に馴染むものが胃袋だと思います。お袋も大事ですよ。これは言うまでもありませんね。そして堪忍袋です。我慢ですよ。たまにテレビで、結婚して50年、60年なんていうご夫婦が取材されると、リポーターの方が必ず聞きますね。「夫婦円満の秘訣は何ですか?」って。するとほとんどのの方がこう言いますね。「我慢だね」って。

そこで一つ紹介させていただきたいお話があります。これはある先生から聞いたお話なんです。あるテレビ番組でこういうお話があったんだそうです。その番組では脳外科の先生がクイズを出しておりました。どんなクイズかというと、この先生のところにある一人の奥さんがご相談に来られたそうなんです。どんな相談かというと、亭主にがっかりしたんだそうです。結婚して40年以上経ったけど、あんな人だとは思わなかった、という訴えでした。そこで問題です。この奥さんの脳の中では何が起きているのでしょうか、というクイズでした。答えは三択です。一番目は、感謝をする脳の能力が衰えた。二番目は、脳の中で何かしらの障害が起こっている。三番目は、脳の機能が正常に戻った。皆さん、答えは何番だと思いますか?正解は三番です。脳の機能が正常に戻ったのです。逆に結婚した時はどうだったのかと言えば、脳に異常をきたしていたのだそうです。これは何も難しいお話じゃないです。諺で「あばたもえくぼ」っていうじゃないですか。あばたとはニキビの跡のことです。えくぼは口元にできる窪みですよ。ニキビ跡のあばたがえくぼに見えてしまう、つまり、醜い部分でも良く見えてしまうということです。「恋は盲目」といいますでしょう。恋をすると見えなくなっちゃう。これと一緒にですよ。元々そういう人だったということに、時間をかけて気が付いていったというだけの話ですよ。

ただ、ここで終わったらただの笑い話なんです。ここ

からその先生は、「がっかりしてからが出遇いですよ。人生というのは出遇い直しですよ。」とおっしゃったんです。素晴らしいですよ。がっかりした時に、どうしてそう思ったのか。そこに気が付くことが大切なんです。私の見方が間違っていたんじゃないかと、ハッと気が付くということが大事なんです。人生とはその繰り返しなんです。

『蓮如上人御一代記聞書』という書物の中に、「ひとたび仏法をたしなみそうろうひとは、大様になれどもおどろきやすきなり。」という言葉があります。「少しでも仏法を聞いてきた人は、穏やかな雰囲気であるけれども、ハッとしやすい。」という意味です。敏感である、センサーやアンテナが常に立っているということをおどろきやすきなりというのです。

先ほど、人生は出遇いの連続ですよという話をいたしました。この出遇いというのは、ポケットとしても勝手に降ってくるようなものではないのです。私の準備に応じて出遇いがあるのです。私も出遇うための準備をしていかなければならないのです。その準備とは何かといたら、仏法を聞くということです。自分のもの見方や価値観がおかしいんじゃないかと気が付いて、色眼鏡を外すということが一番大事になってくるんです。この色眼鏡のことを仏教では煩惱といいます。煩惱というものは物事を正しく見せないのです。この色眼鏡をどうやって外していくか。そこに仏法聴聞があるのです。

こういう言葉もあります。「しかるに『経』に「聞」と言うは、衆生、仏願の正起・本末を聞きて疑心あることなし。これを「聞」と曰うなり。「信心」と言うは、すなわち本願力回向の信心なり。」というちょっと難しい言葉ですけれども、簡単に言いますと、「聞く」ということは、この仏さまはどうしてこの仏さまになったのかということを知ることなのだ」ということです。「仏のいわれ」を知ることです。そして普通は、信心があるから聞くものだと思うじゃないですか。浄土真宗は逆なんです。聞くということがそのまま信心であるということです。

「手を合わせ聞く耳もたぬ初詣」という句があります。初詣にはたくさんの方が訪れ、お願いをしますね。お参りに行く人は自分の願いをかなえてもらうことが大事なんです。その神様、仏さまがどういう方なのかということはどうでもいいんですよ。でもよく考えたら失礼なことなんです。

私たちは人をお願いをしに行く時に、例えばお金を借りるにしても、いきなり行ってお願いしないでしょ。まずは相手のお話を聞いてみましょう。どういう人であって、どういう思いで仕事をしているかということを知らないと、貸してもらえないですよ。相手の話をよく聞いてくれる人こそ何とかしてやろうと思うけれども、相手の話は少しも聞かないで、自分の話ばかりしている人の話は誰も聞かないですよ。だから、その神様や仏さまがどういう方なのかを聞くということが最も大事なんです。

聞くということがそのまま信心であるということをお聞かせいたします。聞くということは難しいことではないんです。先ほども言いました様に、耳を門にくぐらせて、この身をその場に置いていくということが大事なんです。足を運ぶということが大事なんです。そして、何も仏法というものはお寺だけで聞けるものではありません。皆さんの日々の生活、ご家庭のお内仏の前で手を合わせていただいて、お念仏を申す。その中で少しずつ、仏のいわれを聞いていくということが大事なことではないでしょうか。その中で私でなければやれないことを見つけていく。それが大事なことであるということをお伝えさせていただきます。どうぞありがとうございます。

(2023年10月27日録音。テープ起こし、要約:住職)

# 教えて！！ Q & A コーナー

御門徒さんからいただいた疑問や質問にお答えします。今回は身内の死とお参りとの関係について！！

Q 最近身内が亡くなったんだけど、神社やお寺へのお参りは控えた方がいいの？

A 身内の死と神社やお寺への参拝との関係をよく尋ねられます。結論から言えば、お寺へのお参りは控える必要はありません。三十五日法要や礼参でお寺へ行きますよね？ 仏教では死とは命の真実の姿、大切なご縁として考えますので、むしろ進んでお参りするべきでしょう。

それに対し、神社は神道の施設です。神道では死を穢れと考えますので、忌中(四十九日法要まで)の方や、喪中(亡くなってから一年間)の方のお参りに条件をつける場合もあるようです。神社にお参りしたいのであれば、その神社に問い合わせるのが確実でしょう。

私たち仏教徒の立場から言えば、身内が無くなっても神社へお参りに行きたいのであれば、行けば良いと思います。しかし、それによって心がざわつくのであれば、行かない方が良いでしょう。要するにご自分で決めればよいだけの話です。



## あなたにインタビュー ～成田 久英～



お疲れ様でした。  
ありがとうございました！！



倉:世話方を今回交代されるということですが、本当にお世話になりました。

成:父親が31歳で亡くなり、私は9歳からお寺にお参りに行きました。中学を卒業する16歳から世話方をしています。今年で88歳。もう親鸞聖人の90歳目前です。

倉:70年以上も世話方をされたんですね！？

成:御住職、前住職、老僧、その親と、4世代に亘ってお世話になっています。

倉:こちらこそ、成田さんには大変お世話になりました。ありがとうございます。

倉:何か思い出はありますか？

成:親が兵隊にとられて、この辺は男手が無かったので苦労しました。親戚にも助けてもらいました。いろいろなことがありました。村の人たちにも助けてもらって、本当にご厄介になりました。

倉:いろいろなことがあったのですね。お参りのエピソードなどはありますか？

成:盆参になると、朝4時に起きて、私は子どもでしたが村のばあちゃんたちが声かけあって、笑って、白鳥から石瀬、弥彦、麓へ出て、歩いてお寺へ向かいました。途中、材木屋さんがあって、その材木の上に座って朝ご飯のおにぎりを食べました。それからお寺まで歩いて行ったのが今となればいい思い出です。お寺でお昼のお齋をご馳走になって、お勤めして帰って来ると夕方でした。本当にいい思い出です。

倉:いいお話をお聞きしました。今後ともよろしくお願ひいたします。

(2022年11月18日 インタビュー)

## 寺族の声 - 編集後記 -

「まあ飲みなさいや！」と嫁いだ翌日からビールを勧められ、以後、ほぼ毎日晚酌状態。抱いていた堅苦しいイメージは、パアーツと解き放たれました。

老僧は融通無碍、自由闊達な方でしたね。人を寄せるのも好きでした。

1月、初御講の新年会は、歌、踊り、カラオケと、賑やかでしたよ。その皮切りは決まって老僧の「おふくろさん」(森進一)です。歌の好きな方でした。「養泉寺さんばっからいね！初御講で賑やかなのは！」なんて言われてましたね。

さて、私は長年絵本に興味があって、読み聞かせなどをしていくうち、たくさん絵本が集まりました。そこで、住職と相談し、本堂脇の

部屋に移すことにしました。ミニ絵本コーナーです。地域に開かれたお寺の一環として、役立ててくれればありがたいです。きっと老僧もよしよしと頷いてくれているんじゃないかな。

絵本はやさしい言葉と絵で、物事のいろいろな見方を教えてくれます。面白いですよ！開設されましたら、どうぞ見にいらして下さいね。三寒四温、少しずつ春の足音が聞こえてきます。待ち遠しい日々です。

文章：前坊守（倉井恭子）



## 伝筆で、いろいろな言葉書いてみませんか？

様々なコースから技法を学び、自分で楽しめるようになります！！



LINE 友だち追加

一般社団法人伝筆協会  
認定講師



こちらからいろいろとやり取りもできますので、どうぞお気軽に連絡下さい！

ヨガ教室開催中！楽しくやっています☆

毎月第2・4月曜日  
13:15～、1時間程度

詳しくは大矢ひとみ先生まで！

Tel 090-2980-6293

Web <http://sonomamanohito.blogspot.jp>

使わないようそくがある方は御明かしとしてお寺へお持ち下さい。日々のお勤めで使わせていただきます！



全ての連絡先、問合せ、疑問や質問、ご意見ご感想はこちらまで！！

電話 0258-75-2210  
ファックス 0258-75-2210  
ホームページ <https://yosenji-teradomari.jimdofree.com/>  
メール [yosenji1594@gmail.com](mailto:yosenji1594@gmail.com)  
郵便 〒940-2502 新潟県長岡市寺泊一里塚 3883

LINE 友だち追加

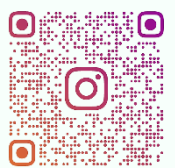


養泉寺 LINE

LINE 友だち追加



養泉寺 kids LINE



TERADOMARIYOSENJI

養泉寺 Instagram

# 養泉寺 行事カレンダー(3月~9月)

春彼岸会・永代経法要 (お中日)	3月21日(火祝)
	<時間> 午前10時半~正午 <志目安> 千円 <備考> お供物あり
法話会①	5月28日(日)
	<時間> 午後1時半~3時 <会費> 不要 <備考> 茶話会あり(お時間のある方)
法中講	6月16日(金)
	<時間> 午前10時~正午 <志目安> 千円 <備考> お齋あり(持ち帰り予定)
法友交流会 (生ビールの会)	7月8日(土)
	<時間> 午後6時~午後8時半頃まで <法話> 松浦武馬師(出雲崎町運行寺) <会費> 女性千円、男性二千円(予定)
法話会②	7月28日(金)
	<時間> 午後1時半~3時 <会費> 不要 <備考> 茶話会あり(お時間のある方)
盆参・新盆会	8月1日(火)
	6日(日) <時間> 午前10時半~正午 <志目安> 二千円 <備考> お齋あり(持ち帰り予定)
法話会③	8月28日(月)
	<時間> 午後1時半~3時 <会費> 不要 <法話> 木村仁師(長岡市専行寺) <備考> 茶話会あり(お時間のある方)
秋彼岸会・永代経法要 (お中日)	9月23日(土祝)
	<時間> 午前10時半~正午 <志目安> 千円 <備考> お供物あり

あなたのお参りをお待ちしております!

<発行> 養泉寺出版 2023年2月28日